

第3章 有帆川河口

有帆川は、美祢市伊佐桜山を源流とする全長31.8 kmの二級河川です。

有帆川河口には有帆川大橋が架かり、左岸には日産化学株式会社小野田工場が、右岸には高泊開作築成時に造られた一直線の土手（横土手）や縄地ヶ鼻があり、まさに小野田地区の歴史が一望できます。



写真位置図

国土地理院地図

1. 太古の大地が残る地 縄地

縄地と書いて「のうじ」とも呼ばれます。縄地ヶ鼻の海岸は、チャート（海底でプランクトンなどの放散虫の遺骸がたまって固まったもの）や泥岩と砂岩の互層といった様々な種類の地層や堆積岩を一度に見ることができます。これは海洋プレートの運動により形成されたもので、2億5千万年以上も前の壮大な日本列島形成の歴史の一部を感じられます。



縄地ヶ鼻 令和7年（2025）撮影 ★16

2. 江戸と明治が見える場所

有帆川河口にある有帆川大橋は、平成26年（2014）に開通した長さ478mの橋で、縄地ヶ鼻や有帆川河口を眺めることができます。

有帆川の右岸に広がる土地は寛文8年（1668）に工事が始まった高泊開作です。ここは干満差が激しく埋立に適していることから、開作の地に選ばれました。

有帆川の左岸には、日産化学株式会社小野田工場があります。この工場は笠井順人などが誘致に尽力し、明治24年（1891）に日本舎密製造会社小野田工場として操業したのが始まりです。その後、小野田地区は「近代産業のまち」に変化していきます。



上空から見た有帆川河口 昭和14年(1939)、15年頃
(歴史民俗資料館蔵) ★17



新生町上空から見た有帆川河口 昭和39年(1964)
(歴史民俗資料館蔵) ★18

明治後半から昭和30年代には^{だん}旦地区などで^{りゅうさんびん}硫酸瓶が生産され、有帆川に無数の船が^{なら}並び硫酸瓶を積み出す風景がありました。現在でも有帆川沿いに^{げんざい}船着場跡^ぞを見ることができます。

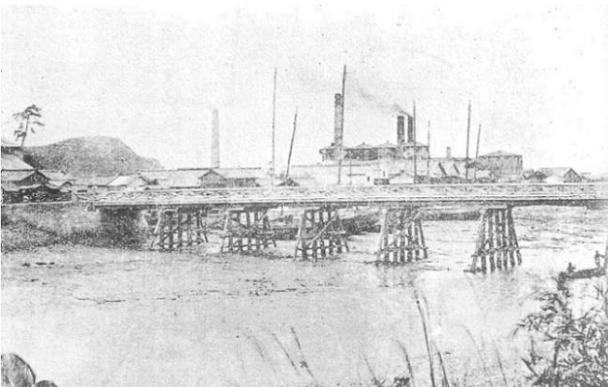


有帆川河口の風景 昭和10年(1935)頃
(歴史民俗資料館蔵) ★19



横土手船着場跡 令和6年(2024)撮影 ★20

左下の写真は、明治42年(1909)3月21日^{らくせい}落成直後の小野田橋(現在の第二小野田橋)です。鉄道の開通を^{けいき}契機に小野田駅と^{すえむら}須恵村とを結ぶ道路が^{しんせつ}新設され、橋が^{かせつ}架設されました。これにより有帆川を^{さかのぼ}遡っていた船は^{おうらい}往来できなくなり、河川交通の^{すがた}姿が変わっていきました。右下は小野田橋付近の写真です。



小野田橋(現在の第二小野田橋) 明治42年(1909)
(『小野田の銀座 柳町と有帆川』より転載) ★21



小野田橋付近 昭和25年(1950)
(歴史民俗資料館蔵) ★22